

令和2年度第2回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和3年3月18日（木）午後2時00分～午後3時45分

場 所：豊田市中心図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 9名

事務局 6名（教育部、図書館管理課）

指定管理者 3名（TRC・ホームックス共同企業体）

関係課 5名（学校教育課、保育課、子ども家庭課、
次世代育成課、市民活躍支援課）

（1）図書館運営について

事務局：令和2年度の図書館運営について説明

指定管理者：令和3年度の事業計画について説明

委 員：コロナ禍での運営は大変だったと思うが、そのことをうまく生かして運営面での見直しも実施できた。

委 員：リサイクルブックは良い事業だが、持ち帰った本の転売が横行すると中止せざるを得なくなってしまう。対策を考えておいた方が良い。

指定管理者：図書館の本にはバーコードが貼付されており、除籍印も押しているため、誰でも見分けることが可能。

委 員：読み終わって不要になった時には、次の人に渡してください等の案内をすると良いのではないか。

委 員：エコットで不要になった本をリサイクルする場がある。配布時に図書館から案内すると、リサイクル本も今まで以上に有効活用されると思う。

委 員：来館者把握について、収集した情報は何か、また、管理のルールはあるか。

指定管理者：利用カードを持参した方は、カード番号のみ取得。カードがない方は、名前、住所、電話番号をお聞きしている。管理のルールとしては、廃棄の期限を設けており、翌月末に処分することとしている。

委 員：カード番号から来館者を特定する時には、誰がどの本を読んだか等、個人のプライバシーが侵害されないよう予め規約を作ってほしい。

委 員：座席予約システム導入により閲覧席の利用が公平になったと思う。利用時には利用カードを機械に読み込ませるが、その情報を図書館側で活用することはあるか。また、利用にあたり、利用回数に上限を設ける等の制限はあるか。

指定管理者：読み取った利用カードのデータ記録は活用しない。制限については、1日1予約まで、利用時間も上限を設けている。

委員：入館時は、まず検温をしたうえで、入館者把握のカード読み取りを行う流れとした方が良い。

委員：コロナ禍のため家庭で過ごす時間が増え、DV・児童虐待が新たに発生した。図書館は公共施設として、困っている人を発見する、解決する役割も求められるが、働きかけたことや困ったことはあるか。

指定管理者：高齢者で服装が乱れた方がいたため、地域包括支援センターと連携して対応したことがある。

委員：コロナ禍は今後も続くため、引き続き意識してほしい。

委員：こどもだけでなく、高齢者や外国人が図書館を利用する働きかけが大事である。

事務局：高齢者に関しては、市内の高齢者クラブ等でアンケートを取るなど、ニーズの把握から始めていきたいと考えている。外国人に関しては、TIA と連携して通訳付きのバックヤードツアーを実施し、図書館の利用方法を知ってもらった。

指定管理者：その他、外国語の利用案内の整備やポルトガル語の需要がある保見交流館での図書の入替等を行った。

委員：新規登録者数の減少幅が他の指標よりも小さいが、理由はあるか。

指定管理者：入館時に利用カードがあるとスムーズに入館できる点、座席予約システム利用時にカードが必要な点から新規登録されたと考えている。

事務局：また、毎年小学校1年生を対象に集団で登録をしており、必ず一定数の新規登録者が発生する。

(2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

事務局：令和2年度事業実績（1月末時点）について説明

関係課：令和2年度事業実績（1月末時点）について説明

事務局：子ども読書活動の推進に関するアンケート調査結果について説明

委員：コロナ禍でボランティア活動が制限された。マスクができない小さなこども達は本来絵本に親しむべき時期だが、読み聞かせができず本当に残念。ブックスタート事業も本を渡すだけになってしまった。今後は本の楽しさを伝えるリーフレットを一緒に渡す等、ただ本を渡すだけでなく、絵本や読み聞かせの良さが伝わる工夫をしてほしい。

関係課：絵本の配布時、絵本と触れ合うことの大切さを記載した挨拶文書やイベントチラシを同封している。今後は、配布時に一言かけることも検討したい。

委員：放課後児童クラブは市内にいくつあるか。

- 関係課：市内に小学校が75校あるうち、70校に放課後児童クラブがある。
一部中山間地域では児童数やニーズ等から設置していない。
- 委員：場所によって貸出冊数が多い、少ない等の差はあるか。
- 関係課：放課後児童クラブ毎の貸出冊数は把握していないが、クラブによっては読み聞かせに力を入れているクラブとそうでないクラブがあると思う。また、人数が多いクラブは、団体貸出を上限冊数近くまで借りることが多い。
- 事務局：放課後児童クラブに利用カードを交付しているが、今年度初めてカードの更新を実施。紛失の有無を確認することの他、団体貸出というサービスがあることを改めて周知することを目的としている。
- 委員：アンケートから、こどもの読書は親の影響を受けていることが読み取れる。こども園等に行く前に親がどれだけ読み聞かせをしているかが重要であり、小さいうちに本に親しまないと、幼稚園、小学校へ進級してもその状況は変わらない。こどもに直接読書をすすめることも大切だが、親へのアプローチも必要と感じたので、今後の施策へ生かしてほしい。
- 委員：アンケートでは「あなたのお子さんと～」と設問にあるが、様々な家庭がある。親世代に限定するのではなく、祖父母世代等、「家庭」というふうに広げて設問を設けないと、回答しにくい方がいるかもしれない。
- 委員：こども食堂と連携を考えているか。
- 事務局：こども食堂の代表者が集まる機会があるため、団体貸出やリサイクルブックを活用した支援ができないか、担当者と検討中。
- 委員：コロナ禍で読み聞かせボランティアが活動できていないが、図書館は活動の場を提供する等、支援する必要がある。
- 指定管理者：中央館では、昨年末から安全対策を講じながら、少しずつ活動を再開させている。こども図書室においても活動の再開を検討している。
- 委員：こども図書室では、利用者からの要望もあるため、ボランティアと図書館が連携しながら4月から活動再開を目指している。
- 委員：中学校の部活動は毎日活動するのではなく休みも設けるよう変更されたと思うが、休みの日を自分の部活動のためのモチベーションアップの時間と捉えるのが良いのではないか。例えば野球部だと、休みの日は、野球に関する本や動画を見て、翌日また頑張ろうと思える時間とする。そうすると図書館で支援できることがあるかもしれない。
- 委員：TIAとの連携について、所蔵している本の情報交換をしているか等、もう少し詳細を教えてください。
- 指定管理者：来年度の連携案として、館内掲示物の外国語版を共同で作成するこ

とや、外国人の利用が多い時間に TIA 職員を派遣する等のアイデアが出ているため、新しい取組をしていきたい。

委員：TIA の所蔵資料は寄付されたものが多い。図書館と TIA、それぞれどんな本を所蔵しているのか情報共有し、相互に発信してほしい。

委員：学校図書館の現場では学校図書館司書が活躍しており、有難い存在。学校図書館用に本を購入する予算が少なくなっており、司書は本を購入したいが購入できず嘆いているという現状がある。

委員：GIGA スクール構想によって、小中学校にタブレットが配布された。本よりタブレットのほうが情報を早く入手でき、子ども達も好きであるため、本から離れてしまう。ただし、インターネットの情報が正しいかどうか、見極める能力が必要。今後このような状況を踏まえながら、どんな施策が必要か、どんな事業をすべきかをみんなで考える必要がある。

事務局：タブレットと本の活用について、子ども達はインターネットが便利な場合と便利でない場合がそれぞれあることを、繰り返し調べることで徐々に理解していく。たまにしか調べものをしないと情報が早く取得できるタブレットを使い、済ませてしまう。学習指導要領が改訂され、今後は「子ども達が主体的に調べ、考えたことを表現する」に力を入れていくため、学校図書館で本を買えない時には団体貸出を活用してほしい。その流れを中央図書館と図書館管理課で作っていきたい。

委員：コロナ禍で園内行事が縮小しているが、保育士は絵本でメルヘンな世界を体験できるよう取り組んでいる。また、絵本修理のボランティアと交流する機会があり、絵本の管理方法、処分の目安等を教えてもらった。教えてもらったことを生かしながら、子ども達に絵本を親しませたい。

委員：ビブリオトークで応募のあった動画は市民も視聴することが可能か。

事務局：動画は個人情報保護の観点から一般公開していない。選考を終えた後、応募された動画の DVD は各学校へ返却している。

委員：子どもは作った動画がどうなるのか期待をする。また過去に先輩が作った動画を参考にしながら作成するという使い方もできるので、個人情報の問題をクリアした上で、有効活用してほしい。

委員：子ども読書活動は紙媒体だけでなく、タブレットも含めて考えてほしい。家で安心してタブレットを使えない子どもがいるかもしれないので、交流館や図書館等、学校・家庭以外にも安心して利用できる環境を豊田市は用意してほしい。

以上